

「1学期の生活科の学習」

生活科では、身近な自然や物事などについて観察する学習をしました。子供たちは、五感を使って、様々なことに気付いていきます。そして、身の回りの物事に興味をもち、より深く知っていきます。

【きれいに さいてね】

5月中旬にあさがおの種を植えました。小さくて黒っぽい種を見つめ、この小さな粒が本当にあさがおになるのか、不思議に思っている子供もいましたが、みんなで優しく土に埋めました。「早く大きくなってほしいな。」「きれいな花が咲いてほしい。」などと、子供たちそれぞれが願いをもって、毎日水やりをして、大切に育てました。すると、小さな芽が出て双葉となり、次に本葉が生えて、あっという間につるが伸びていきました。その様子を観察し、子供たちは「最初に出てきた葉と次に出てきた葉は大きさが違うよ。」「つるが伸びてきたね。」「つるや葉には毛が生えているから、触るとチクチクするよ。」などと、五感を使っていろいろな発見をしていました。

7月になるとつぼみがついたり、花が咲き始めたりしました。「つぼみは閉じた傘みたい。くるくる巻いている！」と気づき、花が咲く前の様子に興味をもっていました。また、友達と自分のあさがおを比べて、花の色や数が違うことを発見して、成長の様子を子供同士で伝え合いました。



花が咲いた後のあさがおがどうなっていくのか、子供たちはまだ知りません。これからのあさがおの観察でも様々な気づきから、学びを深めていけるよう指導していきます。

【とうもろこしの 皮むき】

7月始め、とうもろこしの皮むきを体験しました。まずは、「とうもろこしの博士クイズ」を通して、食べ物には旬があることなどを学びました。次に、とうもろこしの皮をむいていきました。普段食べているとうもろこしとは違い、皮つきのものは、黄色い部分が全く見えません。さらに、もじゃもじゃのひげがたくさんついています。子供たちは皮を何枚もむいて、ひげをとって、綺麗なとうもろこしを取り出していました。



また、とうもろこしの皮をむきながら、手触りや匂い、見た目などを観察しました。「一番外側の皮は濃い黄緑だったのに、むけばむくほど色が薄くなっていった。」「とうもろこしの黄色がいつもより薄かった。」「ひげは、すべすべしていた。」など、様々なことに気付いていました。



皮をむいたとうもろこしは、給食室の調理師さんたちに渡して、その日のうちに給食の「ゆでとうもろこし」になりました。自分が関わった食材には愛着が湧きます。この日の給食で出されたとうもろこしは格別に甘く、美味しく感じたようで、子供たちはとびっきりの笑顔で「美味しい！」と口に出していました。

子供たちは、おうちでも調理のお手伝いなどをすることで、食べることや食材そのものについて興味関心をもつようになります。すると、子供たちは、好きなものはより好きに、苦手なものは少し楽しく食べられるようになると思います。ぜひ子供たちが様々な食材に触れる機会をご家庭でもつくってみてください。